

# 日々 往来



田口 哲也

2020年度から小学校を皮切りに実施される新しい学習指導要領では、情報化やグローバル化、人工知能などの社会的変化が人間の予測を超えて加速度的に進む時代に見合った「生きる力」を学ぶすなわち「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の実現

## 教育改革と地域社会

が重視されている。に取ったオープンな建物を、活発な議論を可能とした、銀行員でも容易に業のやり方を先生から生徒への一方通行から全員参加型に変えるだけでなく、それぞれの生徒が自ら社会的課題を探索し、そのためには外部の専門家の知見も得ながら、世の中で見出しプレゼンテーションしていくといった一昔前の大学でも必ずしも実践されなかった掘り下げた学習スタイルも想定されているようだ。

先日、県内でこうした先進的授業にいち早く取り組んでいる学校を訪ねた。感銘を受けたのは人間の自由で豊かな発想を引き出すために、校内の隅々まで気が配られていたこと。窓をいっばい

既が始まった新学習指導要領への移行期を含め、数年先には、斬新な空間のアクティブ・ラーニングで「生きる力」を身につけた生徒たちが、社会に巣立っていく。そのとき彼ら・彼女ら

「生きる力」の意味は、金融サービスの世界や、県内各業界の企業群が、魅力的な「ナリワイ」と映るために今のうちに産業構造を地域創生に生かす力などが挙げられて教育改革が大人たちに投げかける課題も大きいことではないかと感じたことだった。

「IoT、ビッグデータ、人工知能といった革新的な金融サービス(日本銀行鳥取事務所長)